

社団法人日本新体操連盟

平成 23 年度第 1 回総会議事録

1. 会議名： 平成 23 年度第 1 回総会
2. 日時： 平成 23 年 6 月 27 日（月） 11 時 00 分～11 時 30 分
3. 場所： 東京都渋谷区代々木 2-2-1
「小田急ホテルセンチュリーサザンタワー・21F イーストルーム」
4. 構成員現在数： 577 名
5. 出席会員数： 487 名（うち委任状出席者 470 名）
以下出席会員
Clarte R.G、COSMOS、Pretty COSMOS、Shaleur R.G、
Shaleur R.G.C、Shaleur R.G.U、Sweet ピュア R.G、イオン、
イオン新体操スクール行徳校、イオン新体操スクール船橋校、
ピュア R. G、ふじしまジュニア新体操クラブ、
ふじしま新体操クラブ、新体操クラブ メチタ、谷口 R. G.、
東京ジュニア. R・G、東京ジュニア新体操クラブ、
6. 欠席会員数： 90 名
7. 出席役員： 二木 英徳（会 長）朝倉 正昭（副 会 長）石崎 朔子（副 会 長）
福本 隆（副 会 長）荒井 隆（専務理事）渡辺 守成（常務理事）
池田真喜子（理 事）上村 郁代（理 事）崇島 慎一（理 事）
谷口 裕代（理 事）橋本 千波（理 事）藤島八重子（理 事）
山崎 浩子（理 事）
関田史保子（常務理事）岡 久留実（理 事）谷原 誠（理 事）
岩本 晃（監 事）田中 元（監 事）
以上 16 名（うち委任状出席 3 名）
その他監事 2 名（うち委任状出席 2 名）
8. 欠席役員： 秋山エリカ（理 事）
以上 1 名
9. 議案：
決議事項
第 1 号議案 平成 22 年度事業報告承認について（定款第 5, 29, 39 条関連事項）
第 2 号議案 平成 22 年度収支決算報告承認について（定款第 29, 39 条関連事項）
第 3 号議案 その他
10. 議事の経過及び結果
 - (1) 議長による開会宣言
（社）日本新体操連盟・定款第 28 条の定めにより議長を会長二木英徳が勤め、開会宣言を行った。
 - (2) 議事録署名人の選出
定款第 32 条により、議長は議事録署名人を福本隆副会長と荒井隆専務理事にする事を議場に諮り承認された。
 - (3) 定足数の確認
定款第 30 条により総会出席者数委任状含めて 487 名であることが山崎浩子理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
 - (4) 議決事項
第 1 号議案 平成 22 年度・事業報告承認について（定款第 5, 29, 39 条関連事項）
議長は説明者として石崎朔子常務理事を指名し、石崎常務理事は下記内容の説明を行った。

1. 平成 22 年度登録状況報告について

平成 22 年度は

加盟団体数	577 団体
登録選手数	9,036 名
愛好者数	34,397 名
審判員数	1,173 名
指導者数	1,436 名

であった。加盟クラブの皆様方とともに新体操の環境向上に努めていきたい。

2. 「第 19 回全日本新体操クラブ選手権」について

8 月 29 日から 31 日に東京都「東京体育館」にて開催された。

参加者は 191 クラブ 573 名が参加したが、前回大会とほぼ同数であった。

大会では「イオン」が 3 年ぶり 17 回目の優勝、個人戦ではシニアで山口留奈選手、ジュニアで早川さくら選手が初優勝を遂げた。

全日本選手権にはシニア上位 12 名が出場権を獲得した。

3. 「第 10 回全日本新体操クラブ団体選手権」について

9 月 11、12 日東京都「東京体育館」にて開催された。

参加者は 120 クラブチーム 740 名が参加した。

第 9 回大会までは競技日を 1 日としていたが、参加チームが増え、10 回大会から 2 日で開催する事となった。2 日で開催する事によって、スケジュールが遅れることがなくなり、今後も 2 日競技で行う予定。

競技では、「シニアの部」で「インタークオレス」が 9 回大会の 3 位より、ランクアップし、初優勝を飾った。「ジュニアの部」でも「すみれ R G」が初優勝を飾り新しい力の台頭を感じた。

全日本選手権へは、「シニアの部」上位 3 チームの「インタークオレス」「N P O ぎふ新体操クラブ」「すみれ R G」が出場権を獲得した。

4. 「イオンカップ 2010 世界新体操クラブ選手権」について

大会は 10 月 8 日から 10 日にかけて「東京体育館」にて開催された。

2009 年は三重県で開催された「世界選手権」のため休止したが、2010 年より開催を再開した。

大会には 2009、2010 と世界選手権を連覇した E・カナエワ選手や、そのライバル、コンダコワ選手、ベラルーシのスタニオウタ選手など世界トップ選手が集まった。エキシビションでも引退した A・ベッソノワさんが参加し、大会を盛り上げてくれた。

競技では、カナエワ選手、コンダコワ選手擁する、ロシアの「ガस्पロム」が 11 回連続 13 回目の優勝を飾った。

シニアではカナエワ選手が 2 回連続 2 回目の優勝、ジュニアでもロシアのスワトコフスカヤ選手が初優勝を飾った。

日本選手団では、「イオン」がイオンカップ史上日本チーム最高の 4 位入賞を果たし、個人でも山口選手が 8 位、ジュニアでは早川選手が 6 位に入賞した。

5. 「第 11 回日本新体操祭」

2009 年「世界新体操選手権」の開催のため、「スポーツ健康フェスタ」と同時開催した「日本新体操祭」は、2010 年「イオンカップ」が再開したため、2008 年まで同様、「イオンカップ」2 日目の 10 月 9 日「東京体育館」で開催した。

参加者数は 51 クラブ 1731 名であった。

大変多くの参加者とそれをご覧になるお客様で、大変盛況であった。

6. 「第 13 回全日本新体操チャイルド選手権」

「第 10 回全日本新体操キッズコンテスト」について

今回は 410 クラブ 925 名の参加者を集め、2 月 25 日から 27 日にかけて「東京体育館」にて開催した。

5・6 年生の部で「エンジェル R G カガワ日中丸亀」の栗林 楓選手が初優勝。

3・4 年生の部で「エンジェル R G カガワ日中」の喜田 純鈴選手が前回大会に引き続き 2 回連続優勝を果たした。

今大会では、チャイルドルールを 2009-2012 規則に合せたが、フェットバランス等ルール変更の必要があるので、修正したルールブックを再度皆様に案内差し上げる。

7. 「平成 22 年度セミナー」について

「初級集中講義」を 2 回

「上級セミナー」を 5 回

「審判セミナー」を 3 回

実施した。

以上の説明の後、議長は質疑、意見等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第 1 号議案「平成 22 年度・事業報告承認」について可決された。

第 2 号議案「平成 22 年度・収支決算報告」について（定款第 29, 39 条関連事項）

議長は説明者として荒井専務理事を指名し、荒井理事は下記内容の説明を行った。

資料には平成 22 年度の予算と実績を記載し、差異の大きいところを説明していく。

1. 事業収入

「日本新体操祭」について

平成 21 年度「スポーツ健康フェスタ」と同時開催した「日本新体操祭」を 22 年度では「イオンカップ」と同時開催した。参加者が増え、予算より約 100 万円多い 506 万 1792 円の収入があった。

「バッジテスト」について

22 年度において、すぐに開催が出来る様 90 万円の予算を組んでいたが、継続審議する事となり、収入支出ともに 0 円となっている。

「世界新体操クラブ選手権」について

予算については昨今の経済状況をふまえ、スポンサー収入の減少など見積もって予算を組んでいたが、皆様の協力もあり、予算より約 2000 万円ほど多い収入があった。支出については、テレビ朝日の放映権購入費用、宿泊費用の高騰、F I G 技術委員会議費用などで、約 1 億 9400 万円の支出となった。

「全日本クラブ選手権」について

収入予算を昨年実績から考慮し、1000万円と見込んでいたが、参加料、チケット収入、販売等が貢献し、予算より300万円多い、1298万3326円の収入であった。

支出では21年度の「スポーツ健康フェスタ」との連続開催に伴い発生した費用が無くなったことや、経費削減などで、予算より100万円減の1021万7781円の支出となった。

「指導者海外研修会」について

「指導者育成海外セミナー」では、世界強豪国と交渉を進めたが、セミナー時期に大会が重なり、強豪国に受け入れてもらうことが出来ない為、22年度はセミナー開催中止となった。よって、収入、支出ともに0円計上となっている。

2. 合計

以上により、平成22年度事業活動収入合計は2億5404万703円。事業費支出計が2億2349万688円。管理費がほぼ予算計上通りで3328万6494円。事業費支出と管理費を合わせ、2億5677万7182円が22年度の支出合計となった

22年度収入から、支出を差し引きマイナス273万6479円が当期収支差額となった。

前期繰越金1942万5374円から当期収支差額マイナス273万6479円を差し引いた1668万8895円が次期繰越となった。

3. 貸借対照表、財産目録

22年度は流動資産が約311万円のマイナス、負債が約38万円のマイナス。

よって、平成23年3月31日時点の正味財産は昨年度より、273万6479円減少し、基本財産、資産等含め3831万2951円となった。

4. 監事承認

この決算内容は本連盟監事兩名より、承認いただいていることを合わせて報告する。

以上の説明の後、議長は質疑、意見等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第2号議案「平成22年度・収支決算報告承認」について可決された。

第3号議案「その他」について

議長は議場にその他議案の提出を諮ったが、提案、報告はなかった。

(5) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し総会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 23 年 6 月 27 日

社団法人 日本新体操連盟 平成 23 年度第 1 回総会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 福 本 隆

同 荒 井 隆